

平成 30 年 5 月 1 5 日  
九州電力株式会社

### 玄海原子力発電所 4 号機 1 次冷却材ポンプシール部の 流量増加原因と対策についてお知らせします

定期検査中の玄海原子力発電所 4 号機（加圧水型軽水炉、定格電気出力 118 万キロワット）は、1 次冷却材ポンプの試運転準備中の 5 月 3 日に、同ポンプ No. 2 シール部について、高圧の 1 次冷却材が漏えいしないように流している水の流量（No. 2 シール水戻り）が、通常より多いことを確認したことから、起動工程を一旦止め、点検を行うこととしました。

本事象による系統外への 1 次冷却材の漏えいや環境への放射能の影響はありません。

（平成 30 年 5 月 3 日お知らせ済み）

点検の結果、以下の理由により、可動機能を有する No. 2 シール部のシール面が開いた状態となり、No. 2 シール水戻り流量が増加したものと推定しました。

- ① 1 次冷却材ポンプのパージ水ライン及び No. 2 シール水戻りラインを満水保管したことにより、No. 2 シール部に大きな力が加わり、No. 2 シール部の可動機能に係る Oリングが隙間に噛み込んだ。
- ② そのため、Oリングが拘束されることにより、No. 2 シール部が固着して可動性が悪化し、シール面が開いた状態となった。

点検の結果を踏まえ、以下の対策を行います。

- ・ 1 次冷却材ポンプについては、一体型の組立品となっている No. 2 シールと No. 3 シールを取り替える。
- ・ 1 次冷却材ポンプのパージ水ライン及び No. 2 シール水戻りラインを保管する際には、気相部を確保し満水保管としない運用に見直す。

当社は、引き続き、安全確保を最優先に、検査や作業を一つひとつ丁寧に進めてまいります。

#### 【No. 2 シール部の可動機能に係る Oリング】

2 個の円筒形の金属部の外側と内側の隙間にあるゴム製のリング。

以 上



ずっと先まで、明るくしたい。

「快適で、そして環境にやさしい」

そんな毎日を子どもたちの未来につなげていきたい。

それが、私たち九電グループの思いです。